

アミノサイジンによる細菌性赤痢の治療成績

鈴木義雄・御簾納孝次郎

東京都立駒込病院

昭和 41 年 8 月から 42 年 2 月までに駒込病院に入院した赤痢患者 18 名、同保菌者（病後排菌者を含む）17 名にアミノサイジンによる治療を行なった（表 1）。

薬剤の 1 日量は成人 2.0g、小児 1.0g で、4 回に分け 5 日間内服させた。

治療対象から分離された赤痢菌の菌型はフレキシネル菌 1b, 2b それぞれ 1 株、4 型 5 株、ソネ菌 28 株であった（表 2）。

赤痢患者における治療開始病日は 1~3 病日 12 例、4~5 病日 4 例、7 病日以後 1 例であった（表 3）。

菌検索は治療中は頻回に、その後はおおむね週 3 回行なつた。

治療成績

表 4 および表 5 に示したが、それをまとめるとつぎのごとくである。

1. 発熱

治療開始当日発熱のあつた 10 例では、1 日以内に 7 例、2 日以内に 3 例が下熱している（表 6）。

2. 排便回数減少

下痢のあつた 16 例中 12 例は 2 日以内に 4 例は 4~5 日で排便回数が正常にもどつた（表 7）。

3. 便性回復

17 例についてみると、治療開始後 2~5 日で正常便となつたものが 15 例で、6~7 日を要したものが 2 例あつた（表 8）。

4. 排菌停止

表 9 に示したごとく、患者および保菌者それぞれ 1 例を除いて、治療期間中に赤痢菌の排菌が停止した。再排菌は患者群に 4 名で服薬終了後 3 日目に 2 例、9 日、11

表 3 治療開始病日

病日	1	2	3	4	5	6	>7	計
例数	2	6	4	1	3	1	1	18

日目にそれぞれ 1 例ずつ起こつた。なお、この再排菌のうち 1 例では治療前 1b 菌を、再排菌ではソネ菌を検出した。再排菌か、それとも再感染か判定は困難である。保菌者群からの再排菌は 1 名であつた。

副作用

保菌者に本剤を使用した場合、便通が 1 日 2~3 回と増え、下痢あるいは軟便となつたものが 4 名みられた。そのほかには副作用と思われるものはなかつた。

分離菌の薬剤感受性

平板法を用い、分離菌 26 株の本剤に対する感受性を測定したところ、表 10 のごとく、MIC は 6.25 ないし 12.5 mcg/ml の範囲にあつた。被検菌 26 株はすべて、SM, TC, CM 3 剤に耐性を有するものであつた。

考 按

臨床症状および排菌に対する効果から治療が無効であつたと判定したのは、患者群で持続排菌の 1 例および再排菌の 4 例（疑問の 1 例を含む）計 5 例（27.8%）で、保菌者群では 1 例（5.9%）であつた。無効例が患者群に多く、保菌者群に少なかつた原因を考えると、患者群では病初から治療を始めたものが多く、これに反して保菌者群では症状のなかつたもの、および病後排菌者を治療対象としているためである。患者、保菌者を総合すると無効例は 6 例（疑問の 1 例を含む）で、17.1% になる。これは従来の抗生剤と大差ない治療成績といえる。

結 論

アミノサイジンを赤痢患者 18 名、同保菌者 17 名の治療に用い、臨床症状の回復および赤痢菌の消失に効果を認めた。持続的排菌および再排菌のため再治療を行なつたものは 6 例（17.1%）であつた。

本剤の内服により下痢傾向を示すものが時にみられたが、その他の副作用はみられなかつた。

表 1 治療対象

	小児	成人	計
患者	10	8	18
保菌者	7	10	17

表 2 分離赤痢菌型

1b	1 株
2b	1
4	5
sonne	28

TREATMENT OF BACILLARY DYSENTERY WITH AMINOSIDINE

YOSHIO SUZUKI & KOJIRO MISUNO

The Department of Infectious Disease, Tokyo Municipal Komagome Hospital

Eighteen patients in acute stadium and 17 patients in carrier state of bacillary dysentery were treated with aminosidine at the daily dose of 2.0 g and 1.0 g orally to adults and children respectively for 5 days. The results in 29 patients were satisfactory, but in 6 patients (17.1%) the further treatments with kanamycin were required because of persistent discharge or redischARGE of causative agents. Twenty nine of isolated strains belonged to *Shigella sonnei* and only 6 to *Shigella flexneri*. The M.I.C. of aminosidine against isolated strains tested on the agar plates was 6.25 to 12.5 mcg/ml.

In some patients mild diarrhoea was encountered in the courses of the treatment, but no other un-
toward effects were found.